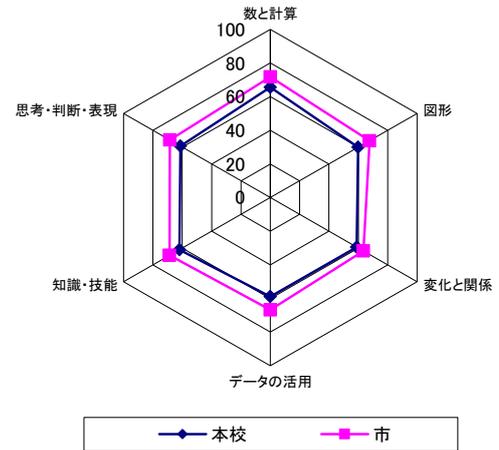


宇都宮市立御幸小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	65.6	71.8	76.2
	図形	59.8	67.7	67.8
	変化と関係	58.9	63.4	62.7
	データの活用	58.9	66.7	61.5
観点別	知識・技能	61.9	68.6	70.7
	思考・判断・表現	61.2	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は65.6%で、市平均より6.2ポイント低い。</p> <p>○分数の除法の文章題に合った式を選ぶ問題では市平均を4.6ポイント上回った。</p> <p>○一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題では市平均を3.0ポイント上回った。</p> <p>●小数・分数の計算問題では、市の平均を5ポイント～15ポイント近く下回った。</p>	<p>・小数、分数等の計算について、プリント学習やAIDリルを繰り返し行い習熟をはかった結果が表れ始めていると考えられるが、今後更に取り組みを強化する必要がある。</p> <p>・公式に当てはめるだけでなく、問題場面を図で表すなどの活動を意図的に取り入れ、式が表す場面を思い浮かべながら立式する力を育てていく。</p>
図形	<p>平均正答率は59.8%で、市平均よりも7.9ポイント低い。</p> <p>●直方体を組み合わせた形の体積を求める問題では市の平均を12.4ポイント下回った。</p> <p>●点対称な図形に対する問題では市の平均を10.5ポイント下回った。</p>	<p>・直方体を組み合わせた形の体積の求め方については、基本図形の体積の求め方を図と式を対応させながら手順を確認していくことで定着を図る。</p> <p>・対称な図形の学習では、操作的な活動に併せてICTを活用し、図形を折ったり、回転するとどうなるかを感覚的・視覚的に捉えさせることを丁寧に行う。</p> <p>・三角形の角を求める等の問題は、プリント学習やAIDリルを繰り返し行い習熟を図る。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は58.9%で、市平均よりも4.5ポイント低い。</p> <p>○速さの単位の関係を理解し、分速を秒速に直す問題では市の平均と同程度であった。</p> <p>●基準量と比較量から、割合を求める問題では市の平均を10.5ポイント下回った。</p>	<p>・割合を求める問題では、式の意味を問題場面や図と関連付けて考えさせ、比較量と基準量、割合の意味や表し方についての理解を深めていく。</p> <p>・時速、分速、秒速の単位の関係を理解し、異なる時間の単位で表されている場合には、単位をそろえて立式できるように繰り返し指導し、定着を図る。</p>
データの活用	<p>平均正答率は58.9%で、市平均より7.8ポイント低い。</p> <p>●データの活用、ヒストグラムを正しく読み取る問題では市の平均を11.4ポイント下回った。</p> <p>●帯グラフから割合を読み取り、説明する問題では正答率が26.7で市の平均を4.8ポイント上回った。</p>	<p>・データの見方に関する用語とその意味、その数値の出し方をセットで覚えることが必要である。さらに目的を明確にし、自分の考えを根拠を明らかにして文章で表現する活動や、相手が納得できるように筋道を立てて説明する場を、授業の中で多く取り入れていく。</p>